「東海道東下り」番外編

『佐屋街道歩き』

（平成２７年４月２５日・２６日）

２６年４月中旬、桑名宿七里の渡し渡船場跡まで歩き着き、堤防上から木曽三川を眺めて「ここからは熱田の宮宿まで船で渡ったんだなア」と歩きメンバーの皆で昔の旅人の苦労を偲び、翌５月下旬に宮（熱田）宿側の七里の渡し渡船場跡から東海道を江戸に向け歩き続けている。今回番外で、この七里の渡しの陸路（脇往還）である『佐屋街道』を歩いた。本来なら桑名の渡し跡から宮の渡し跡までの東下りと思ったが、地図や資料の関係で佐屋街道は京上り（宮宿～佐屋宿）とした。

宮宿の追分道標

佐屋街道は岩塚宿・万場宿・神守（かもり）宿・佐屋宿の４宿で６里、佐屋街道終点の佐屋船着場からは「三里の渡し」といわれる桑名湊までの川船旅になる。スタートは宮の渡しの手前の三叉路の里程標（標石）からで、「北　さや つしまのみち/東　江戸かいとう/北　なこや きそ道/南　京いせ七里の渡し/是より北あつた御本社弐丁」と書かれている。なお標石は２基あり、古い方のもう１基は三叉路から少し離れた民家の出窓横にある。

道標に従い北に向かい熱田神宮脇の伏見通りを金山交差点へ、ここに佐屋路標石があり「南　左 さや海道　津しま道／西　右 宮海道 左 なこや道／東　右 なこや 木曽海道」とあり、左折して佐屋街道に、尾頭橋を渡ると佐屋街道の説明板や真新しい一里塚、歩道には佐屋街道タイルが２種あり、岩塚宿までは迷うことなく歩を進めた。またこの辺りの地名が「二女子・四女子・五女子」とあり、昔は一女子から七女子まであったという。

佐屋路標石

庄内川を渡って次の万場宿に入った。万場宿と岩塚宿は「万場の渡し」による川渡船での往来で万場宿の管理下にあり、宿の機能は月の前半と後半とで双方で分け合っていた（あとから出来た岩塚宿が補佐的）との説明があった。万場宿はさほど広くなく、宿の外れは寺院２つと神社で桝形を形成しており、国玉神社角が高札場跡。お寺のひとつ高圓寺山門は、織田信長と斎藤道三が会見した聖徳寺山門を移築したと伝わっていると説明があった。

万場の渡し表示板

万場宿を出て川を超えて進むとまた高札場跡があり、ここから街道筋らしい街並みの歩きが楽しめた。福田川を超えると「あま市七宝町」

佐屋宿街並み

に入った（この辺り七宝焼きの発祥地で工房が沢山あるらしい）。蟹江川を超えると津島市神守町に入り県道に合流した。ここからは街道の道しるべがほとんどなくなり、地図を頼りに歩く。ようやくこの佐屋街道で唯一の「神守の一里塚」を過ぎ右に折れると、枡形に挟まれた一帯の両側の古い街並みの神守宿について一安心。万場宿からは約２里、元々は万場宿と佐屋宿との間が長かったため、憶感（おっかん）神社を中心に宿屋・商家が立ち並んでいて宿駅の役目を果たしてきたので「神守の宿」が定められたという。

神守の一里塚

神守宿を出てしばらく行くとまた県道に沿って歩くこと暫し、日光川に掛かる日光橋のたもとには歴代の橋の一部が年代別に展示説明されていて興味深かった。この川を越えた先の県道両側にファミレスが沢山有り、朝から５時間あまり歩き続けたのでお昼休憩して、しばらく歩くと埋田（もりた）追分についた。ここが津しま街道とさや海道との分岐で、道標と対の常夜燈がある。

日光橋旧抗と旧街道の街並み

いよいよ最後の佐屋宿めざして出発したが、ここからはさらに標識等が一切なく、地図と地形を頼りに進むも道に迷い、通りがかりの年輩の方に聞きながら高校生に「あの建物は市立病院ですよね」と尋ねたら、「マンションだよ」（実際には病院で正解）と言われて大回りのロスも。何とか名鉄尾西線沿いに出て、佐屋宿手前の佐屋海道址碑を過ぎ浄法寺の先を曲がり、佐屋宿に入った。佐屋宿もそれなりに落ち着いた家並みが続き、その宿外れに佐屋舟場道道標・代官所址・船番所前のキコク垣根がある。ここが佐屋街道終点で、時計を見ると午後３時過ぎ。朝７時半から何とか２５㌔強を６時間半で歩き通せた。（夏日の下での歩きで少々バテ気味。脱水症状にならずに一安心）。

津島街道埋田追分

翌２６日、本来なら佐屋街道終点の佐屋船着場から桑名湊までは「三里の渡し」の船旅なのですが、残念ながら力不足で川船を手配出来ず、仕方なく佐屋宿から桑名湊までさらに陸路１４㌔を、連日の夏日の下４時間かけて歩いた。佐屋から弥富（ＪＲ関西線・近鉄・国道１号が走っている）までは、特に立ち寄る処もない平凡な県道歩きだった。が愛知県弥富から三重県桑名までの木曽三川（木曽川・長良川・揖斐川）の川越えは最高に楽しい歩きになった。

佐屋舟場道道標

木曽川に掛かる尾張大橋の真ん中で県境越えをして輪中の伊勢長島に入る。長島一向一揆の悲劇の地の長島城の願証（證）寺・蓮

佐屋海道址

佐屋代官所跡

佐屋宿街並み

生寺（山門は江戸時代再築の長島城大手門）・牡丹祭開催の水辺のやすらぎパークに立ち寄った。次の長良川は長良川河口堰上の歩行者専用道路（地元ではＵＦＯ道路とか、遠くから見ると宇宙人の基地に見えるとか）を、川風に吹かれ暑さも忘れ、左前方の彼方にゴール桑名湊の蟠龍櫓を眺めながら、最後の揖斐川は伊勢大橋の上から長良川・揖斐川の合流中洲を見下ろしながら、木曽三川を渡りきった。

そのあと揖斐川堤防道路に沿って歩き、昨年４月に東海道歩きメンバーと一緒に、石薬師宿・四日市宿から歩き着いた『桑名湊（桑名の渡し）跡』にまた来ることが出来た。ここにある伊勢の国一の鳥居は、この５月３１日に伊勢神宮宇治橋のお役目を終えた鳥居が奉曳車での「お木曳き」が行なわれ、６月から建替えに入るそうです。（余談ですが、もうひとつの宇治橋の鳥居も、関宿の東の追分の鳥居として建替えられる。関宿の雛飾り、懐かしいですね！）

佐屋街道説明図

昨年春は個人的都合で桑名宿とその周辺の見学が急ぎ足だったこともあり、今回は桑名宿の各所をゆっくりと見学して、名物の焼き蛤・時雨煮・安永餅などを買って２日間の番外歩きを終えた。

【歩行距離３９キロ　歩数 59000】

《３組磯村　記》

揖斐川（手前）と長良川河口堰（UFO）

木曽川手前（愛知県側）

桑名・七里の渡し

伊勢一の大鳥居のお木曳